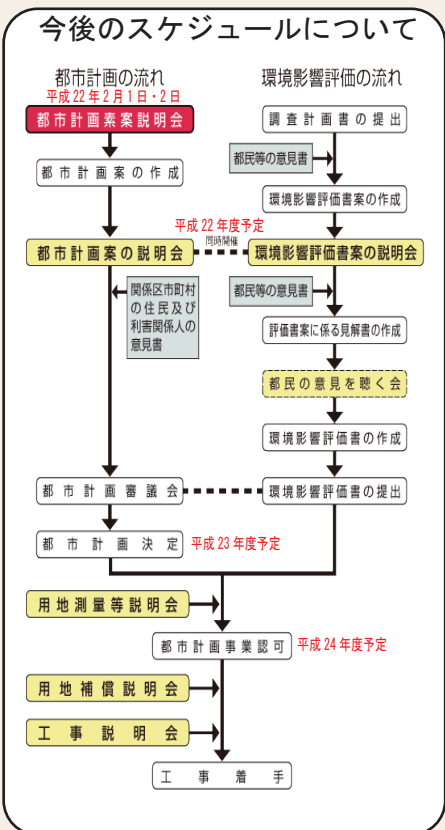
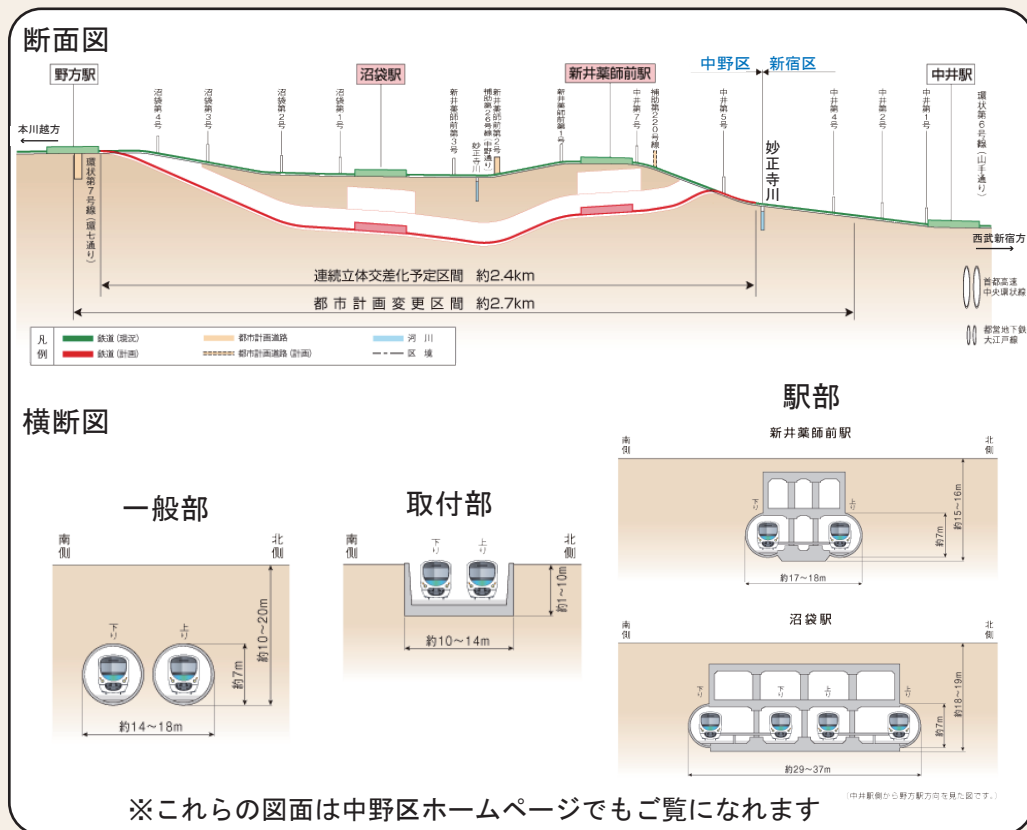




西武新宿線沿線 まちづくりニュース

発行：2010年5月
中野区まちづくり推進室
西武新宿線沿線まちづくり担当

西武新宿線連続立体交差化都市計画素案説明会が開催されました



都市計画素案説明会当日の様子

西武新宿線の連続立体交差化計画の都市計画素案及び沿線まちづくりに関する説明会が、平成22年2月1日、2日に上高田小学校、沼袋小学校にて東京都、中野区、西武鉄道の三者により開催されました。説明会には、両日とも300名を超える参加をいただき、区民の皆様の期待の高さがうかがえました。

今回ご説明しました西武新宿線の連続立体交差化計画は、中井駅付近から野方駅付近までの約2.4kmについて鉄道を地下化し、中野通りなど7か所の踏切を取り除くものです。

また、鉄道の連続立体交差化を契機に、駅前広場や関連街路などの都市基盤の整備などを行い、交通環境の改善や防災性の向上、地域の活性化などを進める沿線まちづくりの内容についても説明を行いました。
※連続立体交差化計画の概要は4ページをご覧ください

連続立体交差化計画 Q&A

Q 西武新宿線の中井駅～野方駅間の連続立体交差化は、どのような目的で行うのですか？

A 連続立体交差化を計画している中井駅から野方駅間では、南北方向を結ぶ幹線道路である中野通りや駅前の商店街通りなど、自動車や歩行者等の交通量が多い道路が西武新宿線と平面交差しています。これらの踏切の多くは、朝のラッシュ時間帯に1時間に40分以上閉まっている、いわゆる「開かずの踏切」となっていることから、自動車や歩行者等の通行を妨げ、踏切での交通渋滞や鉄道による地域分断などの問題が発生しております。こうした問題を解決するため、今回、西武新宿線の連続立体交差化を計画したものです。

Q 連続立体交差化は、現在の鉄道敷地の範囲内で計画されているのですか？

A 連続立体交差化の計画の検討にあたっては、現在の鉄道敷地を有効に活用することを基本としておりますが、鉄道の線形計画上、現在の鉄道敷地内で収まらない箇所があります。具体的には、新井薬師前駅では、列車とホームの隙間を小さくし、安全性の向上を図るため、カーブを緩やかにします。また、沼袋駅では、緊急時に通過列車を臨時停車させるため、上り、下りそれぞれのホームの両側に線路を配置する島式ホームに変更します。このため、両駅付近などにおいて、新たな用地が必要となる箇所があります。

Q 用地の話合いの時期はいつごろですか？

A 用地取得については、都市計画事業認可を取得した後に行うことになります。都市計画決定後に用地測量等説明会を開催した後、境界立会いや用地測量を行い、取得する土地の区域や面積を確定し、用地補償説明会により、補償の考え方などについてご説明いたします。（「今後のスケジュールについて」をご参照ください）

※お問い合わせ

中野区 まちづくり推進室 西武新宿線沿線まちづくり分野
西武新宿線沿線まちづくり担当

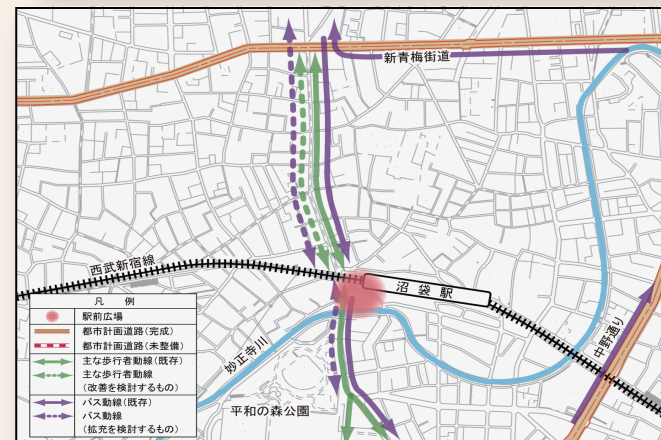
TEL:03-3228-5487
FAX:03-3228-8943
E-Mail:ensenmatidukuri@city.tokyo-nakano.lg.jp

西武新宿線沿線まちづくり

中野区は、連続立体交差事業の実施が予定されている中井駅～野方駅間にある新井薬師前駅及び沼袋駅周辺地区について、まちづくり計画に基づく具体的な取り組みへの第一歩として今年1月に次の基盤施設整備方針を定めました。この方針は、2月の都市計画素案説明会において関連計画として皆様にご説明しました。

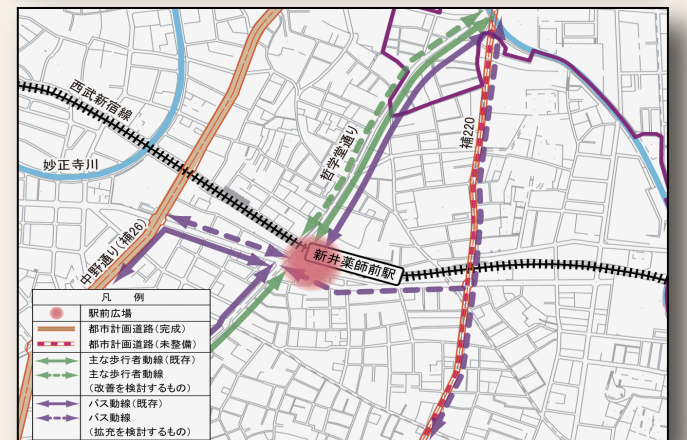
沼袋駅周辺地区

- ◆バスの相互通行化及び歩行者空間の確保など利便性、安全性の向上を図る。
- ◆必要な交通結節機能と地域コミュニティ、地域防災等に配慮した駅前広場を整備する。
- ◆基盤整備に際しては街の再編・再生に配慮した方策を合わせて検討する。



新井薬師前駅周辺地区

- ◆補助220号の整備による道路ネットワークの構築により周辺交通環境の改善を図る。
- ◆必要な交通結節機能と地域の交流拠点としての機能等を持った駅前広場を整備する。
- ◆哲学堂通りについては、歩行者空間に配慮した整備を検討する。



沿線まちづくり Q&A

Q なぜ、連続立体交差事業にあわせてまちづくりを行うのですか？

A 鉄道の連続立体交差化が、駅前交通問題や市街地の防災性など、まちの課題を改善する大きな契機となるため、中野区では、これに合わせて駅前広場や関連街路の整備をはじめとする沿線のまちづくりを進めていく必要があると考えています。

Q 駅前広場や関連街路などは誰がどのように整備をすすめるのですか？

A 駅前広場や関連街路については、地域の方々のご意見をお伺いしながら中野区が都市計画施設として決定し、事業化を図る予定です。（補助 220 号線についても、中野区が事業を行います、都市計画としては既に決定しています）

Q 駅前広場や関連街路の位置や規模は既に決まっているのですか？

A 駅前広場や関連街路などの基盤施設については、今後、交通の利便性や安全性、まちづくりへの影響などを考慮し、関係機関との協議のうえ、区の家を作成します。これらについて、皆様にご説明し、都市計画としての手続きを経て定めていく予定です。

Q 駅前広場や関連街路を整備する際には立ち退きが求められるのですか？

A 駅前広場や関連街路などの基盤施設を整備するためには、権利者の方々のご理解とご協力が必要となります。整備に必要となる土地については、基準に基づき適切な補償をさせていただきますが、今後、ご意見をお伺いしながら進めて行きたいと考えています。

Q 整備方針にある駅前広場付近に住んでいますが、建物の建替えはできないのですか？

A 駅前広場などの詳細な位置は決定していません。このため、現時点では、建物の建替えにあたって、法令上の規制はありません。

Q 沼袋の商店街通りをどのように考えていますか？

A 現在の商店街通りは、12 時間で約 2 千台の自動車交通があります。加えて、バス路線としての利用や、歩行者、自転車を含めた南北の主要動線となっていますが、誰もが安心して通行できる状態ではありません。また、路線バスは地域の重要な交通手段でもあります、現在は中野駅への一方通行のみとなっており、この区間の交通利便性の向上も大きな課題です。こうしたことから、商店街通りを地域の主要動線として位置づけ、安全な歩行者空間の確保や良好な景観形成などを行うことにより、安全性、利便性の向上や商業地としての発展性、地域防災性の向上などが期待されると考えています。

Q 沼袋商店街通りはどの程度広がるのですか？

A 今年度、測量調査を実施し、安全な歩行者空間の確保やバス路線の相互通行化を実現できる、道路計画について検討を行います。さらに、関係機関と協議を進めながら、区の家として道路の幅などについてお示しする予定です。

Q 補助 220 号の整備スケジュールは？

A 補助 220 号線は、本町四丁目の中野通り交差点から松が丘一丁目の新青梅街道交差点までの約 3.5km の都市計画道路で、一部を除き未完成の状態です。このうち、早稲田通りの北側から新宿区境までの約 1 km の区間は、連続立体交差事業にあわせて整備を行う予定です。概ね平成 26 年度より事業化の準備を進める予定です。

Q 地下化されて線路がなくなったらどうなるのですか？

A 線路敷の土地については、鉄道の地下化後も鉄道事業者の土地ですが、今後事業が始まった段階で、土地利用に関する検討会を西武鉄道と中野区が中心となって設置し、利用方法を検討していく予定です。

Q 野方駅、都立家政駅、鷺ノ宮駅も駅前広場等を整備するのですか？

A 「西武新宿線沿線まちづくり計画」では、野方駅以西の各駅周辺についてもまちづくり方針を定めています。駅前広場や関連街路等の具体的な計画については、引き続き検討を進めていく予定です。

西武新宿線沿線まちづくりの状況と今後の取組み

現在、中野区では整備方針に基づき関係機関と協議を進め、駅前広場や関連街路について、検討を進めているところです。今後、計画の進捗に合わせて随時ご説明の機会を設けさせていただきますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

なお、ご不明な点等ございましたら、担当までご連絡ください。

